事例No.	1028
公表年度	R1
団体の属性	一般市
団体名	大分県竹田市

事例区分	公営企業

タグ	・観光 ・観光施設事業 ・公共施設活用

事例種類	その他

事例内容・タイトル

地域資源を活用した新たな産業創出と地域活性化の取り組み～温泉療養施設「クアハウス」の建設と民間活力の導入～

出典

雑誌「公営企業」先進事例紹介(令和元年10月号)

先進事例紹介



地域資源を活用した新たな産業創出と地域活性化の取り組み
～温泉療養施設「クアハウス」の建設と民間活力の導入～

大分県竹田市

１．はじめに

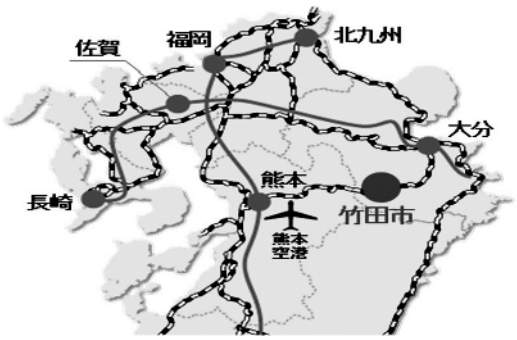
公共建築物の老朽化による問題は全国的にも深刻化しており、今後、大規模修繕や設備機器の更新が大幅に増えることが予想されています。

竹田市においても例外ではなく、公共建築物の老朽化対策について戦略的かつ計画的な推進を行っているところです。竹田市では、老朽化した公営の温泉宿泊施設を解体し、市が進める観光政策の拠点となる施設へと、民間の活力もいただきながら再整備しました。本稿ではその取り組みと、その基礎となる市の観光政策について紹介します。

２．竹田市の概要

⑴　位置

竹田市は平成17年に竹田市・荻町・久住町・直入町の１市３町が合併して誕生しました。大分県の西部、九州のほぼ中心部に位置し、北に



九州本土最高峰の中岳（1,791m）をはじめとした「くじゅう連山」、南にユネスコエコパークに認定された「祖母・傾山系」と豊かな自然に囲まれたまちです。

⑵　産業

広大肥沃な大地や豊かな草資源、夏季冷涼な気象条件を活かした農業と、九州中心部の城下町として栄えた歴史や文化、豊かな自然の恵みである温泉を基軸とした観光が盛んです。

農業は米を中心に、大分県の特産品であるカ

ボスや椎茸、トマトやスイートコーンといった野菜、サフランをはじめとする花き、肉用の豊後牛など、大分県内トップの農業生産額を誇ります。

観光では、瀧廉太郎作曲の「荒城の月」のモチーフとなった国指定史跡岡城跡、武家屋敷、瀧廉太郎記念館などの史跡や文化財、絶え間なくこんこんと湧き出る竹田湧水群や白水の滝などの名水、さらには日本一の炭酸泉といわれる長湯温泉、開放感あふれる雄大な久住高原など、多様な文化資源・自然資源を有しています。



国指定史跡岡城跡



久住高原

⑶　人口・面積

合併により総面積477.7km^2、人口は26,534人となりました。しかしながら合併後、人口は減少の一途を辿り、平成30年度末時点の人口は21,644人。20年前の約３／４、高齢化率46.0％（平成31年３月住民基本台帳）と全国屈指の過疎・高齢化が進んでいるまちであり、これら過疎・高齢化社会への施策として、健康寿命の延伸、予防医療の推進を基軸とした市民の健康づくりが急務となっています。

３．世界に通用する個性的な温泉地づくり

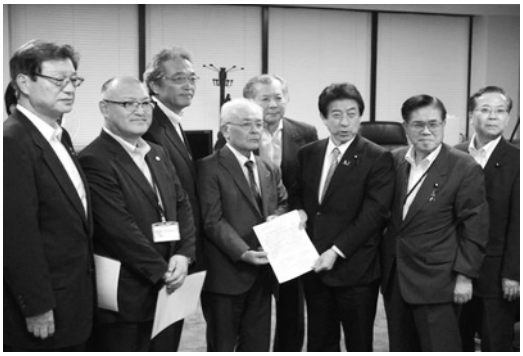
⑴　竹田市クアオルト構想

竹田市には、古くから湯治場として知られてきた良質の炭酸泉をもつ「長湯温泉」や「七里田温泉」、久住高原に湧出する個性的な泉質の「赤川温泉」、また竹田城下町や農村部の荻町にも「竹田温泉」「荻の里温泉」があり、竹田市のどこに行っても個性豊かな温泉を満喫できる環境があります。

これら自然の恵みである温泉を、単に観光資源としてとらえるのではなく、市の重要施策である予防医療の推進、健康づくりにも活用するべく、平成21年に竹田市長に就任した首藤勝次市長は、「国民の健康づくり」、「予防医療の増進」、「新たな観光振興」を戦略の三本柱に据え、温泉利用型療養施設「クアハウス」の整備やヘルスツーリズム認証、総合インストラクターの育成、そして全国初となる『温泉療養保健制度』



北海道豊富町、秋田県仙北市との温泉力地域協力協定



塩崎厚生労働大臣に温泉利用型健康増進施設の要件緩和要望

など世界に冠たる日本の温泉資源を活用した竹田市独自のクアオルト構想の実現に向けた様々な取り組みを展開しています。

⑵　温泉療養保健制度

温泉療養保健制度は「個性的な温泉地づくり」の新たな戦略としてヨーロッパのように温泉療養に保険を適用させる制度を目指し、システムの実証実験を経て導入しました。これまで日本になかった先進的な施策で、原資は目的税である入湯税を活用しています。この制度は、中長期の温泉療養をした滞在者に費用の一部を助成する取り組みです。

利用者はまず、竹田市観光ツーリズム協会及び各地域の観光案内所で竹田式湯治パスポートの申請を行い、本制度に協賛をしている宿泊施設や日帰り温泉施設で利用後スタンプを押してもらうことで、竹田市観光ツーリズム協会へ給付申請を行います。その際、竹田市を知ったきっかけや交通手段、温泉入浴前後の健康状態のなどのアンケートの協力をお願いしており、観光誘客やシステムのブラッシュアップのデータとしています。申請後、書類の確認作業ののち、指定された口座に給付金を振り込みます。滞在期間中は、加盟店舗でのパスポート提示によりさまざまな特典が受けられ、周遊観光・長期滞在のコンテンツのひとつとなっています。

本制度の利用者は年々増加しており、利用者の平均宿泊日数は5.3泊（平成27年度）となるなど長期滞在の実績が生まれています。また滞在者の来訪時期の分散化も図られています。大阪観光大学観光学部の地域経済影響調査結果によると投資額に対して20倍、3,461万円の波及効果があったことも報告されています。このように消費額の向上による経済の循環、雇用の安定などさまざまな効果を生み出しています。



⑶　ドイツとの交流

竹田市がこの「温泉療養保健制度」の取り組みを開始したきっかけのひとつに、ドイツとの交流があります。長湯温泉を有する旧直入町では、希少な「炭酸泉」を交流の核として、平成元年からドイツの温泉地と国際交流を続けてきました。バーデンバーデンやバートナハイムといった、数々の温泉保養地への訪問を経て、最終的に竹田市が国際姉妹都市関係を結んだのは、世界でも有数の炭酸泉で知られるバートクロツィンゲンという町でした。ドイツをはじめ



ドイツバート・クロツィンゲン市との交流30周年記念式典（H30.10.6）



写　真　左：ロルフ・ルブザーメン ヴィタクラシカ館長
写真中央：フォルカー・キーバー バートクロツィゲン市長
写　真　右：首藤勝次竹田市長

とするヨーロッパ各国では、温泉療養に医療保険が適用されており、温泉を核とした「健康」と「環境」と「観光」を同時に享受することができる、保養型の温泉地としての仕組みがあります。長期滞在のための宿泊施設や温泉施設、飲泉場といった基本的な設備から、運動施設や社交の場としてのコンサートホールなども充実、また温泉療法の専門医や指導員が常駐しており、診察や入浴指導だけではなく、食事、運動、生活に至るまで幅広い指導ができるバックアップ体制が整えられています。さらにはこうした指導は、医療行為として認められており健康保険などの社会保険制度が適用されています。こうした世界トップレベルの温泉保養地と人的、経済的、文化的交流を続けていく中で、



竹田市総合インストラクター養成講座修了式

地域資源を活用した予防医療と観光振興を掛け合わせた新たな観光政策は生み出されています。

⑷　竹田市総合インストラクターの育成

竹田市では温泉療養保健制度と並行して竹田市総合インストラクターの育成を行っています。

竹田市総合インストラクターは、日本健康開発財団が認定する温泉入浴指導員の資格を有し、地域資源（温泉・自然・食・環境等）をいかした健康づくりを支援し、特に国民保養温泉地に指定されている竹田温泉郡で行う温泉入浴や湯中運動を支援する本市独自の資格です。これまでに50名の方が資格を取得されています。

４．旧国民宿舎直入荘あり方検討委員会と温泉利用型療養施設「クアハウス」の計画策定

国民宿舎直入荘は、旧直入町長湯温泉に昭和51年開業、約40年間にわたり日本一の炭酸泉長湯温泉の名を広めた宿泊棟に温泉棟を併設した一体型の宿泊施設です。

平成10年には 入浴施設の充実を図るため、温泉棟の大規模改修工事を行い、多くの町民や観光客に親しまれてきました。

しかしながら、約40年を迎えた直入荘は、施設の老朽化や利用者ニーズへの不具合が見られるようになりました。市では平成22年に国民宿舎直入



（旧）国民宿舎直入荘

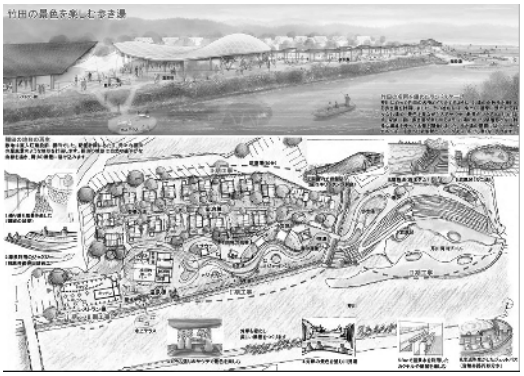
荘あり方検討委員会を設置、直入荘の今後のあり方について「耐震補強」「改修」「取り壊し」など様々な切り口での協議・検討を行ってきました。

そして平成27年度、ヘルスツーリズム大賞の受賞や国民保養温泉地の拡大指定【(※竹田市は、日本一の炭酸泉と言われる長湯温泉（旧直入町）が、昭和51年に国民保養温泉地の指定を受けていましたが､平成27年､拡大指定により新たに「竹田温泉群」として、長湯温泉を含む旧１市３町全ての温泉が国民保養温泉地の指定を受けた。)】など、本市のクアオルト構想の機運が高まりを見せるなか、主要施策である温泉療養保健制度を活用した世界に通用する個性的な温泉地づくりの推進、予防医療と観光振興を掛け合わせた、西洋型温泉利用を目的とした、温泉治療研究と湯中運動、温浴系施設を併せ持つ温泉利用型療養施設「クアハウス」の建設が計画されました。

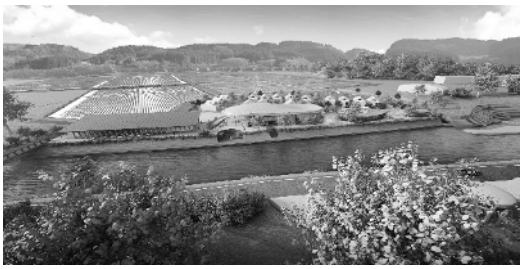
計画では、本市が行っている温泉療養保健制度を広く全国へと浸透させ、長期滞在、地域活性化に寄与する温泉利用型療養施設「クアハウス」を公設で、観光・宿泊に特化した宿泊施設等を民間資金により整備、運営については自由な裁量による創意工夫を促すことから両施設ともに民間が担うこととしました。これにより建設・運営に係る市の財政負担が軽減されるとともに、民間の自由度の高い発想により長湯温泉のより効果的な PR 等が可能となりました。

また施設の設計について、設計者には、クアオルト構想を踏まえ、長湯温泉の特性を生かした施設の設計を構築していくとともに、温泉療養保健制度を広く全国に浸透させ、長期滞在による新たな観光誘客と地域活性化の成果を生み出す多面的施設の設計を練り上げていく力量を求めました。

設計に当たっては、クアハウスに併設予定の宿泊棟を含めた基本構想並びにクアハウスの基本設計及び実施設計について、意欲・情熱を持ち豊かな創造力・設計能力を有する設計者を選考するために、プロポーザル方式による設計者選定を行いました。



採用された坂茂建築設計による基本構想



クアハウスイメージ

５．温泉利用型療養施設「クアハウス」の建設

⑴　地方創生事業

竹田市では「温泉資源活用による新たな観光戦略と滞在型観光交流の促進」を基本的方針の１つに掲げた地方版総合戦略を策定、平成27年度より温泉療養効果の科学的検証、温泉療養空間形成に向けた人材・プログラムの整備を掲げ地方創生先行型交付金事業に取り組んでいましたが、平成28年に国が新たに地方創生拠点整備交付金を創設、先行型交付金に併せ、拠点整備交付金の採択を受けることができたこともクアハウスの整備に向けての大きな追い風になりました。



石破茂地方創生担当相へ事業説明する竹田市長

⑵　民間活力によるレストラン棟、宿泊棟の整備と温泉療養型施設「クアハウス」の指定管理

施設の整備そして運営を担う事業者について、公募型プロポーザルにより選定を行いました。

事業者には、市が整備する温泉利用型療養施設「クアハウス」に併設する宿泊棟及びレストラン棟等、今後の市のクアオルト構想並びに観光振興を牽引する新たな宿泊施設を整備し、これら施設が民間の優れたノウハウを活かした運営を行うことで、多様なニーズに応じた観光客の誘致を実現するとともに、市内の宿泊施設や観光関連事業者等と連携した交流人口の拡大及び地場産業の振興に寄与し、市の地域振興に貢献することを求めました。

審査の結果、株式会社長湯ホットタブを事業者として選定、市内在住の温泉療法医や一般財団法人日本健康開発財団との連携が高く評価されました。

⑶　施設完成

～「クアパーク長湯」グランドオープン～

公設のクアハウス、民設の宿泊棟、レストラン棟は入札不落等により当初予定していた完成時期より遅れたものの、クアハウスは平成30年10月に、レストラン棟は平成31年３月、宿泊棟は同年４月にそれぞれ完成しました。これら３つの施設で構成される場所の総称を「クアパーク長湯」とし令和元年６月２日にグランドオープンしました。





６．今後の展望

健康と観光を掛け合わせた新しい産業のビジネスモデルの確立に向け、竹田市では九州で初となるヘルスツーリズム認証、市営の温泉施設の温泉利用型健康増進施設（連携型）の取得など更なる取り組みを展開しています。また、指定管理事業者である株式会社長湯ホットタブでも市内の医療機関との連携や、県内外の企業・事業所の健保組合などを対象とした「健康経営」の提案など新たな戦略を展開されています。『観光客から保養客へ』をキーワードに国民保養温泉地から観光の潮流を変えるべく官民連携による取り組みの強化を図りながら、世界に通用する個性的な温泉地づくりをめざします。

☆☆☆クアパーク長湯施設紹介☆☆☆

⑴　温泉利用型療養施設クアハウス

クアハウスはスキップフロア２階層の空間を1.8mの短い丸太を組み合わせた相互依存構造の大屋根で覆った温泉棟と長さ50mの歩き湯からなり、そこには従来の裸で入る温泉ゾーンと、水着を着て入る湯中運動ゾーンが設けられています。温泉棟のエントランスからスロープを上がるとまず脱衣所にたどりつきます。脱衣所から半階上がると裸で入る温泉、半階下がると温泉のなかに入って運動できる湯中運動ゾーンになります。またクアハウスの横を流れる清流芹川に沿うようにして歩き湯がはじまります。歩き湯の周りには季節を感じられるランドスケープが施され、自然の中で温泉を楽しみながら健康増進を図れるようになっています。



外観



深さ1.1mの湯中運動スペース



50mの歩き湯

⑵　クアレストラン

竹田ならではの地元の食材をふんだんに使用した健康的な食事を提供するクアレストランは、木と再生紙からできた紙管で構成されています。施設全体の玄関口としての役割も担っており、紙管の列柱がレストランとエントランスを緩やかに分けています。



外観



内観



内観

⑶　クアホテル

自然に包まれた長期滞在可能な14棟のコテージからなるクアホテル。シングルタイプとツインタイプがあり、どちらもペーパーハニカムパネルをヒノキ合板でサンドイッチしたフレーム（PHP）を連続させる構法がとられています。



外観

ベッドや机、収納などはこのフレームの間に効率的におさめられ広く開放的な空間が演出されています。